Red Hat Forum

Red Hat Enterprise Linux 8.3 最新情報

森若和雄 ソリューションアーキテクト 2020-11-20

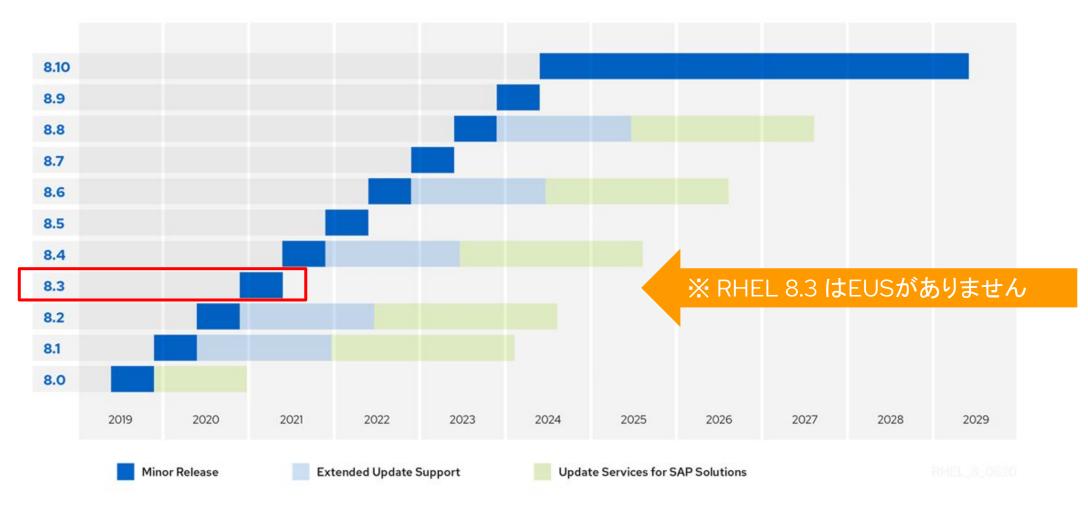


Agenda

- > RHEL 8 0 Life Cycle
- ➤ RHEL 8.3 の機能アップデート
 - 使いやすく簡単に
 - どこにでも一貫したデプロイ
 - セキュリティ
 - 開発者むけツール
 - SAP利用を簡単に
- > まとめ



RHEL 8 の Life Cycle

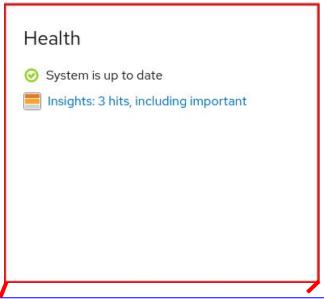




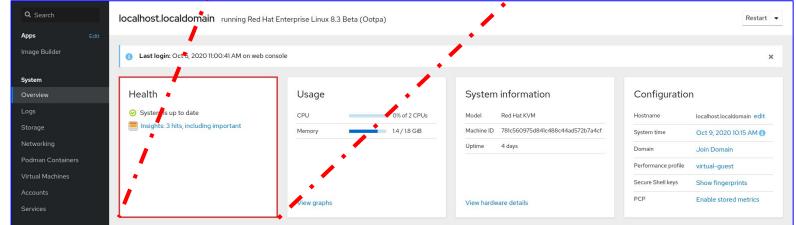
使いやすく簡単に

Web Console

RHELの管理をWeb UIから実施



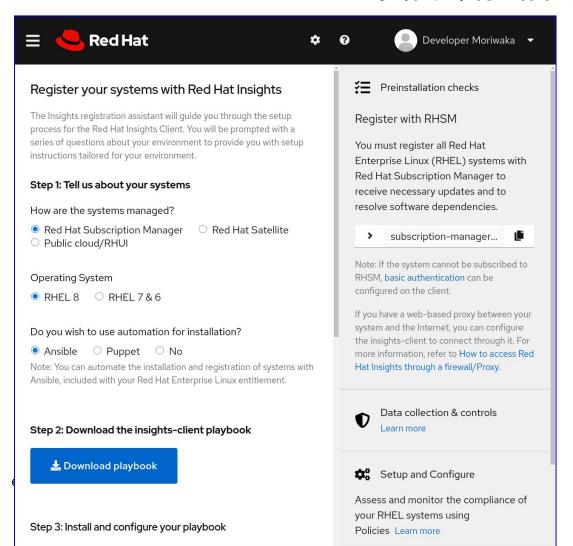
- System Overview を更新
- Red Hat Insightsの診断結果を System Healthへ統合
- ➤ UIデザイン更新





Red Hat Insights

多様な環境に存在するRHELを管理するSaaS



システム登録のガイド

Insightsへのシステム登録方法を環境にあわせて ガイドする [Register Systems] メニューを追加

タグとフィルタを強化

Insightsサービス全体で、タグとフィルタによる システムの絞り込みを利用

SCAPプロファイルの編集

InsightsのCompliance serviceでSCAPプロファイルを編集

Policiesの履歴

Policiesでどのシステムでいつポリシーが実施されたか を表示

VulnerabilityのCVEレポート

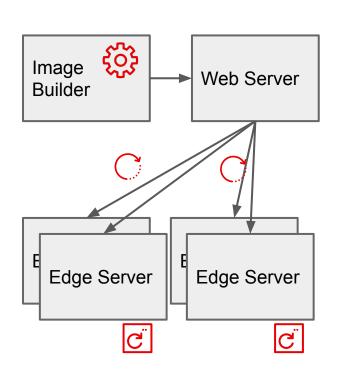
カスタマイズできるCVEレポートをCSV, JSONに加えてPDFで出力



どこにでも一貫したデプロイ

Red Hat Enterprise Linux for the Edge

rpm-ostreeで安定性の強化とデプロイの柔軟性を両立





OSイメージ作成

目的に最適化されたOS イメージを 簡単に作成できる



効率的なOTAアップデート

アップデート時のデータ転送は少なく、ネットワーク接続に制限がある 場合にも適応

មា

リモートデバイスのアップデート

最小限の停止時間で、次の再起動(または電源off/on)時にアップデート



ロールバック

カスタムのヘルスチェックで問題を検出すると、OS更新を前のバージョンに戻す



Image Builderのバックエンド変更

いつでもカスタムVMイメージを作成

os-buildパックエンド

- ➤ Web Console および composer-cli と 互換
- ➤ クラウド上へのpush機能

デプロイ先のタイプ

- Amazon Machine Image (.ami)
- Azure Disk Image (.vhd)
- VMware Virtual Machine Disk (.vmdk)
- RHEL for Edge Commit (.tar)
- OpenStack (.qcow2)
- QEMU QCOW2 Image (.qcow2)

❖ 従来のlorax-composer back-end も引き続き利用可能



ImageBuilderからクラウドへのpush

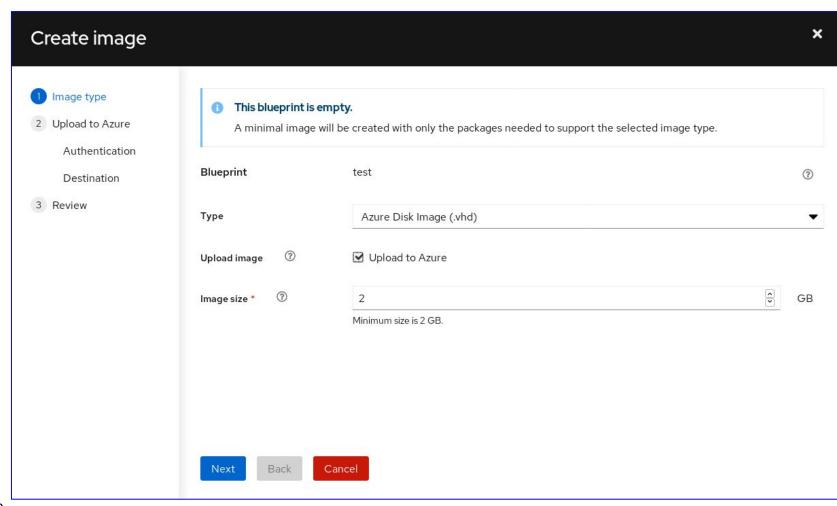


Image BuilderでAWSまたはAzure 用イメージを作成したのち、自動的 にクラウドプロバイダのストレージ へpushする

※ os-build バックエンドのみ



Red Hat Enterprise Linux System Roles

Ansibleによる一貫したシステム構築





新しいRoleの追加

NEW: Logging

rsyslog デーモンのパラメータ、ルール、出力先設定

NEW: Metrics

Performance Co-Pilot v5以降で他ホストからデータ収集、 Grafana v6以降で可視化

NEW: Kernel Settings

/proc/sys と/sysでカーネルのチューニング設定

Upstream source repos:

Logging

Metrics

Kernel Settings



セキュリティ



セキュリティ認証の状況と予定

リリース	Extended Update Support (EUS)	Common Criteria (ISO/IEC 15408)	FIPS
8.0	No	No	No
8.1	Yes	NIAPにて評価中 Q1CY2021に認定予定	評価中
8.2	Yes	Red Hat 契約ラボにて評価中 NIAPによるレビュー予定 (Q1CY2021)	評価中
8.3	No	No	評価中

RHEL 8では Common Criteria認証作業は EUS提供リリースに対してのみ実施

FIPS認証は8.0以外の全てのマイナーリリースで実施



新しい SCAP Security Guide プロファイル

インストーラ、Insights、Satelliteと統合された自動チェックリスト



Health Insurance Portability and Accountability Act (HIPAA)

SCAP profile details



Center for Internet Security (CIS)
Red Hat Enterprise Linux 8 Benchmark

SCAP profile details



USBGuardの強化

接続可能なUSBデバイスを制限し、監査ログに記録

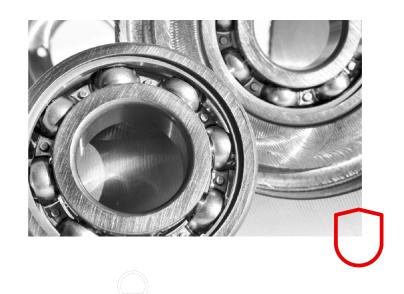


- ➤ ポリシー記述能力を拡張
 - 接続方式によるポリシー
 - デバイスIDを含まないルールによる許可/ブロック/拒否
- ▶ 特定デバイス専用のポリシーを自動生成
- ▶ テスト用の一時的なルール設定
- デスクトップ利用者むけ通知



Red Hat Enterprise Linux System Roles

Ansibleによる一貫したセキュリティ設定



Session Recording

端末セッション記録の有効化と、記録対象となるユーザ/グループの指定

Certificates

Identity Managementまたは自己署名証明書の発行・更新

Network Based Disk Encryption (NBDE)

クライアントおよびサーバの設定(2種のロール)

Upstream source repos:

Session Recording

Certificates

Network Based Disk Encryption (NBDE) - Client
Network Based Disk Encryption (NBDE) - Server



開発者むけツール



Application Streams

新しい技術の提供と同一バージョンの利用を両立

新しい言語とソフトウェア

- ► Node.js 14
- ► PHP 7.4
- Ruby 2.7
- GCC Toolset 10
- ► Git 2.27
- ► NGINX 1.18
- ► Perl 5.30

- 一部Streamのメンテナンス期間は2029年5月 (RHEL 8のメンテナンスフェーズ終了)まで
 - ▶ git 2
 - httpd 2.4
 - mariadb 10.3
 - ► PHP 7.4
- postgresql 12
- ► ruby 2.5



コンテナ化されたContainer Tools



フルサポート:

- buildah
- skopeo

Tech Preview:

podman

RHEL以外の環境でコンテナベースのCI/CDを行っている開発者が、Red Hatのコンテナツール・コンテナイメージを利用しやすくする



Podman 2.0



Docker Compatible REST API

CI/CD pipelinesからDocker REST APIを利用している場合にも Podmanが利用可能になります。

ユーザがデザイン、ビルドに利用するツールを変更せずリモートでのコンテナビルドをDockerからPodmanへ移行できます。

開発ツールのプロバイダと、このDocker-to-Podman移行を実装するための協議や検証を行っています。





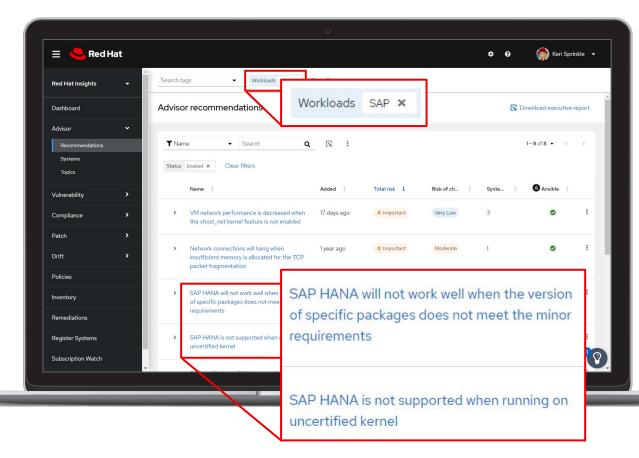
SAP利用を簡単に



SAPワークロード管理を一新

Red Hat Insights で SAP インフラ専用のviewを用意し、素早く問題を識別

Red Hat Smart Management 経由でボタン一つで修正



- Red Hat Insightsは自動的にSAPシステムとSAP Identifierを検出
- ➤ SAPインフラ用のダッシュボードです ばやく健全性とセキュリティリスクを特 定
- SAPの推奨への対応と、Ansibleで対応するためのplaybook生成
- ➤ Red Hat Satelliteと連携して修正もボタンひとつ



Red Hat Enterprise Linux SAP System Rolesのフルサポート

SAP導入手順を簡素化



SAP Pre-configure

SAP導入用にシステムを設定。パッケージの追加、DNSの設定、 SELinuxの設定など。

SAP HANA Pre-configure

SAP HANA導入用にシステム設定を変更。SAP Pre-configureのあとに実行し、tunedのsap-hanaプロファイルの適用などを行う。

SAP Netweaver Pre-configure

SAP Netweaver導入用にシステムを設定。SAP Pre-configureのあとに実行し、環境確認やtunedのsap-netweaverプロファイルの適用を行う。



まとめ

- ➤ Red Hat Enterprise Linux for the Edge OTAアップデートや、自動ロールバックでリモート管理を簡素化
- ➤ Image Builder VMイメージに加えてEdge用イメージを自由に作成、クラウドへ自動Push
- ➤ Red Hat Insights 使いやすさを継続して改善、管理機能も拡充
- ➤ Ansible による構築を簡単に
- ➤ 一部Application Streamsのライフサイクル RHEL 8の10年のライフサイクルに揃いました。
- ➤ SAP基盤としてもよろしくお願いします



試してみよう: <u>lab.redhat.com</u>



New: Build an application into a container image using RHEL container tools

サードパーティのアプリケーションを、Red Hat Universal Base Image(UBI)ベースのコンテナイメージにするラボ

https://lab.redhat.com/containerize-app



New: Securing containers with SELinux [Udica]

実行中コンテナから利用可能なホストの資源を定義したSELinuxポリシーにより

コンテナ分離を実現するラボ

https://lab.redhat.com/selinux-containers



New: An introduction to Ansible

コマンドラインでのAnsibleとはじ めてのPlaybook実行のラボ

https://lab.redhat.com/ansible-introduction



Red Hat Forum

Thank you









